
原型である幻想郷から最も近くて最も遠い幻想郷の主要達への詩

ガンアーク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

原型である幻想郷から最も近くて最も遠い幻想郷の主役達への詩

【Nコード】

N8268L

【作者名】

ガンアーク

【あらすじ】

これは、ある意味三次創作に近い詩集です 東方SSのオリ主達を題材にした詩を掲載しています

第零番 見えない蜘蛛の糸をたどって訪れよう最も近くて最も遠い幻想郷へ（前

今回は、初回でオリ主達がテーマではなく、自分の東方二次創作に
対する考えを詩にしてみました

第零番 見えない蜘蛛の糸をたどって訪れよう最も近くて最も遠い幻想郷へ

求めよ

最も遠くて最も近い幻想郷を

貴方の想像という絵の具と貴方の表現という絵筆で幻想郷というキヤンパスに新たな模様を描いてくれ

どんな模様でもいい

既存の模様を書き加えるも良し

自分をモチーフにした模様を書き加えるのも良し

故人の転生をモチーフにした模様を書き加えるのも良し

とにかく、自分が思うままに絵筆を動かせ

そして、自分が頭の中にある幻想郷を描け

描き上げたなら、その絵が見たい

貴方の幻想郷を見たい

私の幻想郷だけでは飽きてしまう

そう、幻想郷は、無限に増える

絵描きの心の数だけ

他人がどう言おうと自分は、どんな幻想郷も受け入れよう

桃源郷の仙人達が、駄作と言って捨てた幻想郷を私は、駄作とは思わない

駄作と名作の境界なんてあてにならない
だから、自分の幻想郷を私に見せてくれ

さあ、見えない蜘蛛の糸を辿って幻想郷へ向かおう

最も遠くて最も近い幻想郷へ

幻想と現の人の詩（前書き）

今回、投稿するのは、幻想郷訪問録のオリ主の黒羽 刀弥がテーマの詩です

ちなみに作者からすでに許可はもらっています

幻想と現の人の詩

俺は、外来人

突然、その地に呼び寄せられた

そして、妖怪達に受け入れられた

俺は、異端者

人間に関わらず、異能を持っている

俺がその気になれば過程を作り変え、結果を自在に変化させられる
しかし、これは人間には過ぎた力だと俺は恐れている

俺は、この幻想が集まるこの地が大好きだ

しかし、現実が存在する外の世界を捨てる気はない
外の世界も、いい事がたくさんある

だから、この幻想郷と外の世界、両方の生活を大事にしたい

俺は、妻帯者

妻を悲しませて、天国に行くのはいやだ

それなら妻を喜ばせて、地獄に落ちる方がずっといい

そして、私は守護者

その力で壊す物を選ぼう

それが守るといふ事につながるから
さあ、侵略者よ

破壊の対象になる覚悟はいいか

そして、この幻想郷をよく見える場所から見渡そう

幻想と現の人の詩（後書き）

今回の詩は、A C 4の名曲thinkerをアレンジして刀弥のあらゆる姿を表現を試してみました

最初の一節は、外来人としての彼を、第二節は、能力を持つ者としての彼を第三節は、外の世界と幻想郷の生活を両立しようとする彼を、第四節は、夫としての彼を

第五節は、幻想郷訪問録の番外編にあたる「東方から来た技術部の人間」に出てくる守護者としての刀弥をイメージしています

第二詩 博霊神社の伝承（前書き）

今回で二回目の三次創作詩です

しかし、今回は、作者の要望で作品名は伏せてました

第二詩 博靈神社の伝承

彼は、一見すると川辺に転がるただの石だった

しかし、小石と言うにはあまりにも重かった

何故なら、彼は餅鉄という鉄鉱石の一種、砂鉄と共に鑪の中に入れて鉄となる

彼は、偶然という砂鉄と共に突然、一人で動く鑪の中に投げ込まれた

鑪の中で砂鉄と共に溶け始める彼

しかし、その彼は、鑪の中で激しく暴れた

溶けてたまるかと鑪の内部を砕きながら暴れ続けた

そして、鑪が耐えきれずに崩壊した

吐き出された時には彼は、彼でなくなっていた

彼いや彼女は、白く輝く玉鋼になっていた

彼女は、運命という鉄槌によって鍛えられ、自覚という砥石によって研がれて、更に一振りの刃となった

彼女は、鑪が砕けた際に赤く染まった鑪の残骸の一部から自らの鞘を作り、白く輝く自らの刀身を収めた

彼女は、小振りな刃であったが異能を宿していた

餅鉄としての生を捨て刃として生き、その中で彼女には妖怪の友人が出来た

しかし、彼女の予想を超える速さで人間は進歩していき、妖怪を排除し始めた

彼女は、仲間を守る為に異能を行使する

妖怪と人間の対立が激化し始めるの中で彼女は、一人の天才と出会う

刀剣が異能を使っても天才は、彼女の存在を見破った

普通、天才は時間が経てば、凡人と化すがその天才は、逆に才能に磨きがかかっていた

しかし、後に月人と呼ばれる一部の人間達が月へ移住する際にその天才も月へ移住する事になり、彼女はその天才と別れる事になった
しかし、彼女は分かっていた

その天才は、月の姫と共に再び地上へ来る事を

天才と別れた後に、彼女を待っていたのは人間と妖怪の戦争だった
その戦争で仲間を失っていた刀剣は、友人を守る為に異能を全て使い、核の火から守ったが、彼女は親友を全て失った

残されたのは、親友が可愛がっていた兎達と親友が残した自分達を守る迷いの霧に覆われた竹林だけ

彼女は、それを止められなかった

o h I · m c r y i n g

s o I · m c r y i n g

私の友は、全員死んでしまった

o h I · m c r y i n g

悲しみの音は、竹林に鳴り響く

この戦を契機に世界はもう一度、作り直された

彼女は、再創造後に竹林から出た後、数多の功績を残した

彼女がいなければ幻想郷自体存在しなかった

彼女がいなければ、亡霊嬢は自らの能力に輪廻を繰り返しながら苦しめられただろう

彼女がいなければ、博麗神社はなかっただろう

あつたとしても信仰はないに等しいだろう

彼女がいなければ、悪魔の妹は、一生屋敷の地下に軟禁されて、狂気に支配されていただろう

彼女がいなければ、博麗結界どころか、妖怪拡張計画さえ実行できなかったかもしれない

彼女は、幻想郷にとって主軸

そう言っただけではないだろう

それほど、彼女の功績は大きい

彼女の事が詳しく知りたいなら、彼女が存在する幻想郷へ行きなさい
行き方は、電子の蜘蛛の糸を辿りなさい

後は、電子の蜘蛛がきめてくれるから

第二詩 博霊神社の伝承（後書き）

今回は、民話や伝承のイメージで執筆しました

ちなみに今回の詩の中にある電子の蜘蛛とは、ネットのことです
ウェブは英語で蜘蛛の巣の事で、そこからネットを電子の蜘蛛と比
喩しました

第三詩 ネクストゲーム(前書き)

今回は、東方機械大鳥 をテーマにした詩です

第三詩 ネクストゲーム

チェスの駒、将棋の駒、囲碁の石等のボードゲームに使っている駒
それらがたくさん、その箱庭に転がっている

いつから？

どうして？

わからない

しかし、これだけはわかる

転がっている駒は、盤からもプレイヤーからも忘れられた捨て駒

駒は、本来に盤に戻る事はあるのだろうか？

わからない

しかし、捨て駒達の本来の役目は、終えたのだろうか？

それは、わかる

否とはっきり言おう

新たなゲームの準備は、始まっている

すでに対戦者は、客間にいる

では、我々も準備をしなければ、ならない

転がっている駒達よ

起きろ！

次のゲームの始まりだ！！

第三詩 ネクストゲーム（後書き）

今回のテーマは、チェス等のボードゲームの駒を東方機械大鳥の
に出てくる軍人達の比喩として書いてみました

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8268/>

原型である幻想郷から最も近くて最も遠い幻想郷の主演達への詩

2010年10月11日04時22分発行